の順序なるべし。ヨセフアスは謂へらく、此市はアブラハムよりも古しと。シエキスピーアの院本には、アベルは此處にて虐殺されしものとなせり。此他聖書の記事の此地に關係するもの尚は多し。思ふに最も淺薄の學者も、一たびダマスコの名を聞かば、直ちに癩者ナアマンの有名なる歷史、亦美はしき二の河に關するナアマンの言（王下五〇）、パウロの悔改、及びパウロが爾後此地の會堂にて說敎せしことなどを思ひ出すならん。（徒九〇）。

(100) ダマスコの直と云る街

思ふに此の圖に見ゆる街は新約書に記載せらるゝ彼の街に相違あらじ。東より西に走りてダマスコを橫斷し、一の門より起りて城に達す。其道筋は不規則の箇所多けれども、概して「直」なり。長さは凡そ一哩許あり。此街にタルソのサウロがユダと共に居住したりといふ古跡あり。それより更に進めは、人の注意を惹く大なる建物あり。形狀古代の敎堂の塋に似たり。傳說にいふ、是れパウロが目盲ひたる時、神の撰にありて其視力回復の機械となりしアナニアの家なりと。主は此處にてアナニアに對し「起て直と云る街に往きユダの家に至てタルソの人サウロといふ者を尋よ彼は祈て居」と（徒九〇十一）いひ給ひしなり。

此事のありし頃には、此街は恐らく其幅百呎ありしなるべく、且つコリント風の柱を建列ねて之を三筋に仕切りてありしならん。此の連柱の遺物は尚ほ存すれども、其地上に現はれたりし部分は久しき前に磨損して今は見へざるなり。

(101) パウロが縋下されし石垣

此の由緒ある石垣を見物するに、パウロが城内より見付けられずして其難を避けたるとも、亦彼のラハブが之と同体裁あるエリコの市の石垣より間諜を首尾よく遁せしとも（書二〇）共に尤もありしを知るあり。此の石垣の低部は古代のものあると證據明白、之を一千八百年以前に存在せしと同物あらずといふの理由は、一も存せざるあり。上部は稍近代の工にかゝり、建築遙かに劣等なり。石垣の上には、此の市の風習に基づき、近代風の建物あり、幾分か石垣の外にまで喰み出で、且つ數箇の窓を設けたり。此窓よりすれば、容易く遁れ出づるを得たるべきなり。我等是等の諸点を心得置きて然る後、使徒行傳九章二十

五に所謂る「夜弟子たち筐をもてサウロを石牆より縋下せり」とある句を讀めば、自ら新しき味を感ずるなり。此の場處は癩者ナアマンの家に近く、亦「和平の門」と稱せらるゝ門に近し。

(102) パウロ悔改の古跡

パニアスよりダマスコに到るには、其路倦み易き曠野の中を通じ、之を終りて初めて昔の羅馬街道に達すべし。今此圖には多くの順拜者等集合し、己がじゝ禮拜の行をなしづゝあり。此處ぞ即ち是れパウロがキリストの信者を迫害すとてダマスコに近づきし時、驚くべき異象を見し傳說上の古跡なる。即ち聖書にいふ「彼ゆきてダマスコに近けるとき忽ち天より光ありて彼を環照せりかれ地に仆る」(徒九〇三、四)と此圖に見ゆる小丘は、昔の街道跡の一斑にして、堅く込め固めたる小石を以て成り立ちたり。其の緣は巡拜者等この聖跡の遺物として保存するため小石を拔き去る故、次第々々に低く成り行けり。此の靈場に

伏し仆るゝこと、然らざるも其肩を此の小石の堤に觸るゝことは非常に功德ある禮拜の行ありと看做さる。此の堤に弓狀の堀鑿あり、其形隧道に似たり。迷信ある巡拜者等、其の緣に身体を擂り付けつゝ此中を通過するなり。

(103) 大回敎堂の連柱

大回敎堂即ち聖ヨハ子敎堂はエルサレムにあるヲマルの敎堂よりも更に大きく、更に古し。近年まではキリスト敎の巡拜者等、此中に入るを許されざりしが、現今は少額の入場料を納むれば、即ち此の堂内に入り、内部の面白き狀を見物するを得べし。堂は其の奧行四百八十九呎、間口三百二十四呎あり、此の一方に大なる庭あり、幾多の小庵室之を圍めり。内部は中堂と飛椽とに分かれ、其仕切としては美々しく飾りたる二列の圓柱あり。四壁は美麗ある大理石の嵌工を以て之を飾り、其牀には結構なる花氈を敷き詰めたり。人若し此の敎堂に入らば、其内多くの祈禱所ありて、此圖にも見ゆるが如くに、回敎徒等

或は跪き、或は起立し、冥想と祈禱をなしつゝあるを見て、心に先づ怪しき感を起すならん。スリヤの神なるリモンの神殿は此處にありたるならんとは、極めて有力なる想像なり。此の想像若し實際なりとすれば、此所は列王紀下五章の話と關係あり、此所にナアマン「騾馬に負せたる二駄の土」を置き、イスラエルの神を禮拜したるなり。アハズが見且つ摸造したる祭壇は亦恐らく此所に在りたるなり（王下十六）。

(104) ダマスコの商店

ダマスコに至るもの、其の商店を見ずんば未だ以て盡せりといふべからず。其の陳列せる商品の範圍と性質とは多くの他の都會の市場と相比較すべくもあらねど、其雜多にして且つ珍奇なるとは、以て覽者を喜ばしむるに足る。此處には內國製の美麗なる製品とては一點も見へず。今は昔し、金絲を織り込みたる美麗の綾子を製造すると、ダマスコの工藝の一なりき。又ダマスコの劍も有名なる製作品なりしかども、是れ亦存在せず。今日此處に販賣せらるゝ武器は品質劣等のものなり。最も內國的に近き列品は鞍工の作れるもの是れなり。亞利比亞人は、己れはさておき、其の愛馬の粧飾に注意すると一層切なるが故に鞍工

容易く其の狡猾なる工藝品を之れに賣り付くるを得るなり。樣々なる商店皆怪しげなる舗を張り、或は一襲の衣服、或は一足の靴を買はんとするものある時は、徒然なる番頭、悉く此の一客を取り圍み、其の物品に就て助言し勸告するなり。書店の何處にも見當らざるは、是れ東洋人の精神的に遊惰なる一證ならんかし。

(105) パアナ河の瀧

フイジエの泉はアバナ河の重もなる源流なり。此の泉の上に荒廢せる古き社殿あり、此の下に二の洞穴あり、アバナ河は是れより發し、洶湧怒號、直下して他の諸川と相合し、それより急に激流となる。其道山間を經る間に、幅次第に廣まり、水次第に深く、川底よりして立てる斷崖は高さ一千呎、其色白きと殆んどヘルモンの雪の如し。我等其水の麗しき翠色を見るにしても、其灌漑の効能を思ふにしても、將た又其附近の絶景を望むにしても、アバナはスリヤの諸川中、最も有名なるものといふの當然なるを知る。ナアマンが所謂る「ダマスコの河アバナとパルパルはイスラエルのすべての河水にまさるにあらずや」

(王下五〇十二)との語は、蓋し誰しも之を諒せざるを得ず。

(106) バアルベックの廢址の遠景

此の廣大なる廢址は、世界各國より來る巡拜者の且つ怪しみ、且つ嘆美する所なり。バアルベックはレバノンとレバノンに對峙せる諸山との間なる美はしき、肥えたる野の中に位し、キリストの御時代前には廣大繁昌の城市なりき。現時は微かなる一寒村にして、何等の活氣もなく何事の愉快もなし。されば旅客の興味は一に其廢址に集まる。其建築と彫刻の善盡し、美盡せるとは、工藝上、無比の標本なり。其建築は或は猶太風なるもあり、或はドリック風なるもあり、或はタスカン風なるもあり、或はコリント風なるもあり、即ち知る、此の建物の各部は別々の時代に逐々建てられしとの說、大に理由あるとを。此の廢

址の主部は其の一邊凡そ九百呎、又他の一邊凡そ五百呎の面積を掩ふ。亞剌比亞人は此の建物を以てソロモンの工なりとし、ソロモンの大なる富の幾分は此の下に埋もれてありと信ず。若し夫れ老練家を以て見れば此に巧みに亞細亞と歐羅巴の文明を融和せることを鑑定するを得るなり。

(107) バアルベツクにあるバアルの神殿

此圖に見ゆる六本の柱は、此の驚くべき神殿の中、今現に存留するものなり。其の建築はコリント風にして高さ六十五呎、直徑凡そ七呎なり。基礎と頂上とは殆んど完全にして之を建てし初めに替らず。此圓柱の上なる笠は、極めて數奇を凝らし、且つ美麗を盡せり。此の笠の石は、各皆一方の柱より次の柱に達す。此の距離凡そ十五呎なり。尙は昔の柱の基礎にして元の地位に殘れるもの多し。然れどもサラセン人等、此の廢址を堡塞として用ゐたる時に、轉置したる石も數多く、又その美を損へり、此の神殿の基礎は今尙は之れを髣髴することを得べし、其の奥行は三百呎、其間口は凡そ百六十呎なり。門の小部分は今

尙は存留し、非常に美麗のものたりしを示す。此の四方何れを見るも狼藉たる廢墟の中、極めて精巧なる美術の片碎散亂するなり。寔に是れ人の榮華の定めなき悲しき紀念物なり。

(108) バアルベックにあるゼウス神の神殿

此の神殿はその保存今尙は申分なき狀態にありて容易く其の各部を探究することを得べし。一言以て之をいへば、こは是れ古代美術の驚くべき紀念碑なり。奧行二百三十呎、間口百二十呎あり。コリント風の圓柱は其高さ六十五呎、其直徑は基礎に於て六呎三吋、首部に於て五呎八吋なり。此の柱の多くは今日尙は存留す。前廊の天井は、笠より本殿の壁に達する數枚の大石を以て之を作れり。而して此の石の面には、男神と女神、果物と花とを彫刻せり、殿内の彫刻は極めて複雜に、且つ美麗なり。近年の大建築に用ゐられたる摸型此の中に多し。壁の周圍には偶像を安置する幾多の廚子あり、昔しは定めて美術の妙工を以

て滿たされしならん。この社殿は、回教徒の暴手に破損せられし箇所も多けれど、一千七百五十年の大地震に甚しき損害を受けたり。

(109) バアルベックにある巨大の一本石

バアルベックの廢墟は、其全体よりいふ時は、世界中屈指の最大壯觀なり。かほど精巧ある技術は曾て何處にも存するを見ず。考古學者に取りては、多年を費して研究すべき好題目あり。されど多數の人に取りては、此の廢墟の大々的奇物としいはば、即ち許多の大石あり。此圖に見ゆるは、其の石切場にあるものにて、同處にて切り取りたるものあり。此の長さは六十九呎、其幅十三呎、其厚さは十三呎三吋あり此の面積二万四千平方呎にして、其重量は一千一百噸を下らざるべし其形狀端正にして、三方の角は之を削り成せり。以て知る、此地の人民は其石を截り取る時之を修飾すること其風習ありしことを。さてかほど

の大石は如何にして之を截り取ることを得たるか、又如何にして其場處に運搬するを得たるか、之に就ては様々の解釋も出でたれど、一として滿足の說あることなし。此の大なる廢物に就ては、不思議にも全く其銘を缺く。此を以て我等は只疑と暗黑との中にあり。

(110) バアルベックにある石垣の一本石

バアルベッツの外廓の石垣は、多數の人に取りては同地の神殿の人工的廢墟よりも却て珍らしく感ぜらるべし。今この圖に見ゆる三の大石は、古今の建築に用ゐられしものゝ中にて最大の石なり。讀者此圖を見ば、幾分か其眞相を察するを得ん。此三の中、一は其長さ六十四呎、一は六十三呎八吋、一は六十三呎あり。而して其高さは各十三呎、其厚さも亦各十三呎あり。それさへあるに、是等の大石は、平地より高さ二十呎強の石垣の上にあり、且つ充分一哩を距てし石切場よりして截り出したるものなりとは驚くべきことならずや。バアルベックの諸建築は、ソロモンの力ありといふものは、即ち此等の大石を以て

列王記上七章に所謂る「基礎は貴き石大なる石即ち十キュビトの石八キュビトの石なり」とある話に附會す。亞剌比亞人は信ずらく、ソロモンは魔術師にて、此等の大石は其の魔法を唱へて動かしたるものなりと。

(111) レバノンの香柏

昔はレバノンの香柏としいはゞ、無比の壯觀、無比の美麗なるものと看做されたりき。ソロモンの時代にはレバノンの香柏、その數甚だ多かりしが、現今にては、大小老若只僅かに四百株ほどを存するのみ。此林は純粹に香柏の林にして、他の一木を交へず、其地は地中海の水面を拔くこと、凡そ六千呎の高處にあり。又此の有名なる香柏は、直徑凡そ八哩を距てたるレバノンの中央山脈に其大森林を形造れり。其幹は高くして且つ直く、枝は扇狀をなして、端に至りて尖れり。葉は細かく、狹く、手觸り粗く、色は濃綠なり。是れ即ち「ヱホバの樹」なり、「其植たまへるレバノンの香柏」あり。(詩百四〇十六)。此處は即ち

列王記上五、六兩章に記したるエルサレムの第一神殿建築の用材を取りたる森林の舊蹟なり。先きには山羊その若木と苗木とを荒らし、爲めに絶滅の恐れもありたりしが、近年に至り、柵を廻らして此のレバノンの樹王を保護することとなれり。

(112) ベイルート

是れ屈指の愉快なる都邑なり。此の住民凡そ七万人、其の多數は節約勤勉にして便宜愉快なる家屋に居住し、市街は常に清潔に、商賣正直にして申分なし。若し其の商業街を一過すれば、此地に住居する人民の宗派と信仰の如何に雜多なるかを立ろに感ずべし。一週に三日は安息日として守らる。即ち金曜日は回教徒之を守り、土曜日は猶太教徒之を守り、日曜日は基督教徒之を守ればなり。此外希臘教徒とアルメニヤ教徒とは、許多の聖徒日を守るが故に、ベイルートにては一年三百六十五日、殆んど毎日休日なり。各宗派の人々皆其の制によりて衣服を異にし、且つ其の用ゆる國語を異にするが故に、異彩異聲共に

此地の街頭を歩するものゝ忘るゝ能はざる所なり。此市は前來記述したる諸の都市に比し、最も活氣あり、最も生長力あり。能く歐州の文明に同化し、數箇の盛大なるミッジョンスクールあり。又その活版所にては、亞剌比亞語の書籍を出版しつゝあり。

(1)基督磔殺の時のエルサレム想像畫

此の想像畫は聖書の中心的事實、歷史の最要事件を描き出したるものなり。中にも此圖はキリスト磔殺の舊跡を現はしたるものにて、（太二十七〇）最も注意深き、最も批評的なる研究の結果なり。大學者の説に由るに、エレミヤの洞穴を距ると遠からざる此の岩の頂きこそ、即ちイエスの死を遂げ給ひし古跡なれといふ。此の頂きは大北街道に近く、エルサレムの北廓を距ると凡そ三百呎あり。其高さ凡そ六十呎、形狀頗る、半ば埋もれたる髑髏に似たり。（三十三節）。此圖は是れエルサレムの石垣の北西方に立ち、凡そ三十五哩を距てたる地中海を望みたるものなり。此の左に隊商の宿泊する廣大なる驛舍の跡あり。

(2)エルサレムより北西方を望む。

これは前圖と同一の地位に立ちて望みたる圖なり。而して眼を北西方に轉ずれば、此圖の如き廣大なる一地方を見るべし。其右に當りて見ゆるはダマスコの途にして北に通ずる大往還なり。又左の方には其の前景に平屋根の牧羊者の小屋あり、パレスチナの家屋は一般に皆此風なりと知るべし。家根の上に座したる人々は、是れ時事を討論し、且つイエスの血を流せし舊跡を眺めつゝあるものなり。それより遙かに遠方には圓頂の建物あり、是れ昔の羅馬兵の營所なりとす。此處の景色は特別に何等の美麗なるものあるにあらず、されど基督教徒は之を神聖犯すべからざる土地と認むるなり。故に何派の人と何國の人とを

問はず。此岩と谷とを踏むもの畏敬の念を抱かざるはなし。主の死し給ひし時には、カルバリ即ちゴルゴタはエルサレム附近に於ける最も穢らはしき場所なりき。是れ最も忌むべき死狀たる人を磔殺する場所なりし故なり。されば キリストは最も恥づべき死を遂げ給ひしと共に又最も不名譽なる刑場の露と消え給ひしと知るべし。されどイエスの死は却て此の場所を一變し、聖き優しき思ひあらしむる場所となせり。ナポレオン曰く「今日神の子の爲めに死せんことを願ふもの百万を以て數ふ」と。而して此神の子は此處に死し給ひしなり。

(3) エルサレムより北方を望む

是れは前圖と同じ地位に立ち、貴きゴルゴタの舊跡を一層近く見たるの圖なり。此の前景には舊門ありて井戸を覆へり。又遠方には大なる驛舍、即ち隊商の宿泊所見ゆ。此等の建物は隊商全体を容るゝに足るべき大なる内庭を具へたり。又岩の四方に人民群集せるは、熱心に三本の十字架を見つゝあるものなり。我等之を見る時は昔し十字架の四方に集ひし樣々なる群衆を直ちに思ひ出すなり。(約翰傳十九〇二十五、二十六。馬太傳二十七〇三十六、五十五、五十六〇)此時イエスの朋友の之を仰ぎ視たるものは僅かに數人のみ。群民は即ち附近の岩と丘の上よりして之を罵り奉れり。又羅馬の兵卒は骰子を投じてイエスの

衣服を分配し了り、座してイエスを見奉れり。然るに其日の三時に、地の上遍く暗くなりし時には、此等の群民の恐慌のほど察するに餘りあり。彼等は其中央の十字架に宇宙の神を束縛せるを殆んど思ひ付かざりしなり。埃及のヂオニシアスは此の暗黒を見て左の如くいひしとぞ。曰く「是れ神苦痛を受け、世界之に同情を表するにあらずんば、即ち世界の滅亡將に切迫せるなり」と。

(4) エルサレムより北東方を望む

是れ亦前圖と同じ地位に立ち、最も肝要なる古跡を望みたる圖なり。此の左方にあるは即ちキリストの仲間の婦人にして其後に杖を持てるものは、イエス十字架の上より其母を委托し給ひし愛する弟子なり。又其左にあるものはアリマテヤのヨセフとニコデモとなり。此の一群の右方にあるは百夫の長なり。又其右にあるはラザロにして其妹を扶助しつゝあるなり。此の後に羅馬兵等イエスの衣服を分配するとて骰子を投じつゝあるの狀見ゆ。遙かに遠方を望めば市の石垣の一角模糊の間にあり。世に稱す磔殺は是れ殘酷なる諸の工夫中にても最も殘酷なるものなりと。「大釘は焮衝を與へ、大創は熱を持ち、局部の痍は

全身の熱ことあり、熱は堪ふべからざる渇ことある」。是等のことあるよりして、「刑人はたゞ其の一筋一肉を動かすも、却て己れの苦痛を加ふることあるのみ。抑も此の三本の十字架はすべての人類を代表するものなりとは、古來已に其說あり、即ち中央の十字架は人類の贖罪、悔ゐざる盗賊の十字架は不信の社會、悔ゐたる盗賊の十字架は信者の社會を代表す。

(5) エルサレムより東方を望む

是れ尚ほ前來の地位にありて、磔殺の刑場より見ゆるエルサレムの圖を示したるものなり。而して此圖は、能くエルサレムの北廓と、著名の建物とを寫し出したり。尚ほ其の後景に見ゆるは、神聖なる橄欖山にして、山の半腹、右方なる圓形の見張臺の少し先きに一の途あり、是れ迂曲してベタニヤに達する有名の街道にして、今十字架の上にかゝり給へる悲みの人が屢々往復したまひたる途なり。又少し左に寄りてヘロデの宮殿あり、技術と財寶とを盡したる美麗なる建物にてはあれど、狼籍たる廢墟に歸するの日遠くもあらじ。中央にありて高さ方形の塔を具へたる大なる建物は是れ即ちアントニオの城なり。ピラト

の法庭は即ち此の中にありたるにて、ヴィア、ドロロサを經て磔殺の刑場に達したる奇怪の行列は、即ち此處より出發したるなりけり。高慢自尊の有司等は、此日そのなしたる所置が、エルサレムの滅亡と顛覆とを速く基たるべしとは殆んど思ひも寄らざりしなり。

(6) エルサレムより南東方を望む

眼を轉じて南東方を望めば更に別の光景を見るを得べし。是れは即ち低地にして、此圖に見ゆる低地は稱してタイロピアン谷といふ所なり。此の前景は此時の如き大祭節に當り、エルサレムに上京する巡拜者の露營の光景を極めて巧みに寫し出したるものなり。此に見ゆる天幕は駱駝の毛を以て作りし天幕にして樣々なる東洋の什器その傍らに狼籍せり。思ふに此の大祭節の時にはエルサレムの石垣の四方、斯る露營者、數千人ありたるならん。左に見ゆるものは即ち有名なるダマスコ門の景にして、歴史上非常の由緒を有する大北街の一部をも併せ示したり。此門よりして多くの人々出で來る。而して其面は皆附近の岩の

上に向へり。イエス將に磔殺せられんとすればなり。爾來万國万民の眼は地上の壯觀たる榮光を背にして、何れも皆カルバリ山の大々的榮光を望み、千秋尚ほ一日の如し。

(7)南方より見たるエルサレム

尚ほエルサレムの石垣に添ひつゝ、更に南方を見渡せば此にも歷史上床しき建物あり。左の端にありて鬱蒼たる木陰の間に隱見するは、アンナの館なり。アンナは即ち非職の祭司長にして、我等の主は最初此人の前に曳出され（約十八〇十三）、此人更にイエスを縛りてカヤパに送りたり。右に當りて此繪の背後に見ゆる高き處はシオンの山の一部なり。又後景にありて黑く見ゆる巖乘なる建物は祭司の長カヤパの館なり。イエスは此處にて罵られ、撲たれ、唾せられ、無法なる衆敵の手より樣々なる無禮を受けられたりしなり。此處はまたペテロが卑劣なる非認をなせし舊跡として有名なり。左の方の後景に見ゆる圓頂閣は

ピラトの館の一部分なり。右の端に聳えたる圓頂閣の如き高塔はダビデの墓なり。尚は此の前景は能く此の近傍一帶の地の荒蕪なるとを示し出して眞を穿てり。

(8) エルサレムより南西方を望む

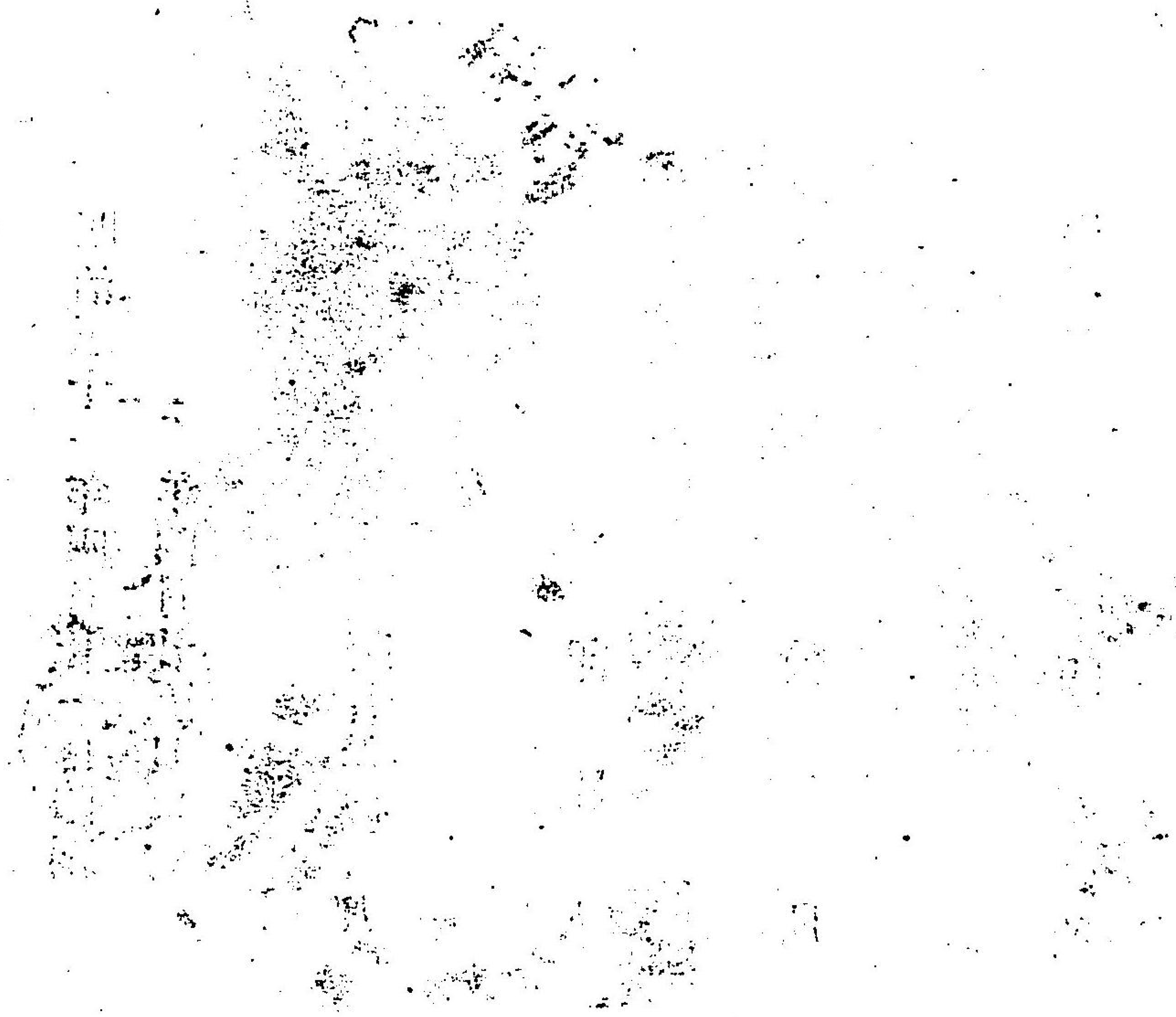
磔殺當時に於けるエルサレムの光景を示すと本圖を以て其終りとなす。此圖に見ゆる最も目に立つ建物は白色大理石もて作れるヘロデ大王の居殿なり。此の殺伐なる國王は、美麗なる多くの建物を作り、エルサレムを飾りて以て其の多くの惡虐を償はんとせり。即ち大王は、ソロモンの神殿を修覆し、其前部は黃金を以て之を張り結めたり。尚は此の居殿はソロモンの美麗なる居宅の跡に建てしものなるべく、而してヘロデ大王一家の居宅なりしなり。右に見ゆる邑はペサイラスの邑なり。又左に見ゆる邑はヘロデの妻マリアム子の邑なり。大王は非常に此のマリアム子に懸想し居たるが如し、されど懸想は却て此婦人

の仇となり、後には大王が激烈理不盡なる嫉妬の犠牲となりて殺されたり。中央の門は王の門なり。是を出づれば、エルサレムの石垣の正西なる美しき花園に達するを得べし。以上は是れエルサレムの民が榮光の君を磔殺したる時のエルサレムの實景なり。是より以後の衰亡死滅は我等の熟知せる歴史上の事實なり。

明治三十一年四月[illegible]日印刷
仝　年四月[illegible]日發行

著者兼發行人　東京市京橋區銀坐四丁目二番地　堀田達治

印刷人　仝市赤坂區青山南町三丁目九番地　木村伊之助

發行所　仝市京橋區銀坐四丁目二番地　敎文館

印刷所　東京府下豐多摩郡澁谷村元青山南町七丁目一番地　青山學院實業部